

今日が「その時」かもしれない。

備えていいですか、「災害」に

日本は地震や豪雨などの災害大国。ここに住んでいる限り、災害は突然起こり、私たちを待つてはくれません。自然災害の脅威は、過去の災害が私たちに何をすべきか語りかけます。その教訓を生かし、あらゆる災害を想定できていますか。自分や家族の命を守る手段、避難方法……。災害に対する意識と備えはできていますか。災害について、今一度考えます。



昭和52年7月に発生した豪雨。新中野住宅団地内の道路が冠水。(写真は、現在の親水公園付近の県道邑楽足利行田線)

過去に学ぶ

過去の災害の記憶を風化させてはいけません。邑楽町で水害があったことを皆さん知っていますか。過去の水害を知り、改めて、考えてみませんか。そして未来への備えを考えるきっかけにしてみてください。

今から40年前。邑楽の町でも起こった。

昭和52年7月16日晚、邑楽町を襲った豪雨。雷を伴い翌日まで降り続いた雨は、100mmを超えました。それにより、水田の冠水は296.5ha、床下浸水は25戸。新中野の道路はほとんど水に浸ったそうです。当時を知る二人に話を聞きました。

憶があります。

—石井さん 私の家は、孫兵衛川と東武線が交差する、すぐ北の区画。家の前が低くなっており、水が流れてくるのは分かっていたのですが、夜だったのでいつものことだと思っていました。しかし朝になると、水はほとんど溢れ、前の道路は大人の腰くらいまで浸水。床上浸水にはならなかったものの、畳をはがし、板を開けると水がすぐそこまで来ていました。

—森区長 水で浸かった場所では子どもたちが学校に行けない状況でした。自治会ではボートや板倉町から揚げ船を借り、水の無いところまで、大人たちが送っていききました。

—石井さん 水が増えると、いやな臭いが……。「お父さん、トイレが変なの」との妻の声で逆流。だから子どもを送るにはボートを使わなければいけません。



新中野・33区 区長 森和男さん

んでした。もちろん、水の高さの問題もありましたが、下水が逆流してきた汚水の中を歩かせるわけにはいきませんでした。だから、そのときは消毒を徹底。子どもが帰ると、必ず消毒をさせました。また、浮き草にも苦しめられました。いまだに庭では、浮き草が発生しています。そしてこの経験から、今は雨が降ると外がどんな状況か確認するようにになりましたね。

—森区長 現在は、河川改修も終わり、そういった状況はなくなりました。これも歴代区長や関係者の皆さんのおかげです。ただ、実際に邑楽町でも水害があったことを忘れてはいけません。



石井廣誠さん (新中野・33区) 昭和49年に新中野に移住。その3年後に床下浸水を経験。

●平成27年9月関東・東北豪雨
9月10日～11日にかけて、関東地方や東北地方では16地点で最大24時間降水量が観測史上最多を更新。栃木県日光市五十里では551mmを観測した。それに伴い、茨城県常総市では10日早朝より、鬼怒川で越水や堤防から漏水が発生。同市三坂町では堤防1か所が決壊した。

●人的被害 死者 2人、負傷者 44人
●住家被害 全壊 53件、大規模半壊 1,518件、半壊 3,491件、床上浸水 150件、床下浸水 3,066件(常総市発表資料より)

鬼怒川決壊場所
浸水区域

(写真提供:国土交通省関東地方整備局)

水の怖さを再確認。命を守るには早めの行動と過信を捨てること

切れるなんて思っていなかった」「早めに避難したから、けがも無かった」などの話を聞きました。今回の活動で再確認したことは、水の怖さと、早め早めの行動が命を守る一番大切な行動であること、自分の地域は大丈夫という過信を捨てることであると感じました。皆さんも早め早めの行動をお願いします。



消防司令 村上博さん 館林地区消防組合 館林消防署 署長補佐

平成27年9月、関東・東北豪雨により発生した鬼怒川決壊から2年。当時、館林地区消防組合でも県から緊急消防援助隊としての派遣要請があり出場しました。

第2次派遣隊員によれば、11日深夜から12日の正午にかけて、取り残された住民の避難誘導とゴムボートによる救出活動を行いました。が、深夜で足元の見えない活動が中心であったために救出に時間を要してしまつたと聞きました。

私は第4次派遣隊と

して現地に派遣されましたが、活動の中心は被災した家を一軒一軒訪問し安否確認を行い、その後は依然として不明となっていたかたの捜索活動を行いました。活動を行った場所は、決壊箇所から約10kmの地点でしたが、発災3日後ということもあり、水は引けている状態で、浸水した形跡が町の至る所に確認できる場所でした。



CHECK 防災倉庫の設置

町の防災倉庫は役場、ヤングプラザ、各小学校に設置し、分散備蓄を行っています。町の備蓄品としては、以下の通り。

アルファ米（チキンライス）、アルファ米（わかめごはん）、ビスケット、飲料水 500 ml、毛布、非常用トイレ



CHECK 邑楽町総合防災訓練の実施

町では2年に一度、防災訓練を実施しています。今年も9月3日におうら中央多目的広場で開催。（下の写真はその時の様子）



CHECK 防災行政無線の設置

災害時に情報をすぐに伝える手段として町内に48か所設置。大規模災害時には最大音量で放送します。Jアラートで送信された国からの情報も放送します。



CHECK 町のハザードマップの再確認

町では、災害に備えるためにハザードマップを発行しています。もしもに備え、もう一度確認を。あなたの家は災害時に、どんな状況になるのか想定してみてください。

※町のハザードマップは本年度中に改訂予定です。



CHECK 町の避難所を再確認

地図に示したのは町にある2階建て以上の施設の避難所。その他、全ての町立保育園・幼稚園と各行政区の集会所などが避難所になっています。避難所はあらかじめ家族で話し合っておきましょう。

- 中野小学校 高島小学校 長柄小学校 中野東小学校 邑楽中学校 邑楽南中学校
- 邑楽町公民館 邑楽町立集会所 邑楽町共同福祉施設 産業研修会館（長柄公民館）
- 町民体育館 武道館 中野幼稚園 ※この施設が必ず浸水しないということではありません。

支援と備えは

過去の災害は、私たちにいろいろなことを投げかけます。災害は日頃の備えが必要ですが、町としてもさまざまな備え、そして皆さんへのサポートを行っています。まずは、この中から自分ができることを考えてみませんか。

防災で最も重要なのは、自助です。自分の身を自分で守るために、まずは最低3日分。備えてください。



橋本圭司さん 役場安全安心課長

邑楽町には、海がない、山もない、そして雪はほとんど降らないなど、気候や地理的要因の災害が起こりにくい場所であるため、「災害とは無縁」のようなところがあるかもしれません。ですが、2年前に起こった関東・東北豪雨での鬼怒川の決壊、そして今年7月に起こった九州北部豪雨など大雨による被害はどこでも起こりうる時代となりました。もちろん、地震大国の日本ですから、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋

沖地震規模の地震が起こることも否定はできません。

ご家庭での確認と備えを

そういった災害時に備え、町では、ハザードマップを発行しています。ハザードマップについては自分の住んでいる地域の浸水の可能性や最寄りの避難所などを記載しています。そして、本年度中には、現在のハザードマップを新しい情報に改訂予定ですので、もう一度確認をお願いします。

また、町内6か所には防災倉庫を設置しており、災害時に必要とされる備蓄品を備えています。ですが、一度災害が起こると避難所に来られない場合や家から動けない状況になってしまいかもかもしれません。ですから、こ

した事態に備えるために、日頃から最低3日分の食料を備蓄しておくことが必要です。今は、3日程度で周辺からの支援物資などが届くようになってきています。まずは最低3日間分、ご家庭での備えをお願いします。

まずは、災害への意識を

最後に、災害が起こったときに皆さんはすぐに逃げられるでしょうか。人は、危険を過小評価し、心の平穏を保とうとすると、心は平穏を保とうとすると、逃げ遅れるのです。だから常に災害に対する意識を持ってください。町からも、災害時には、防災行政無線やおうらお知らせメールなどで情報伝達をできるだけ早く行います。皆さんも、日頃から非常時の備えをお願いします。

CHECK おうらお知らせメール

「おうらお知らせメール」は、町や近隣市町のイベント情報や緊急情報、防災情報、不審者情報などをあらかじめ登録した携帯電話やパソコンに配信します。

登録方法
【携帯電話・スマートフォンから登録】町の携帯用ホームページにアクセスして登録する。
URL
http://www.town.ora.gunma.jp/k/
※トップページ下「おうらお知らせメール」登録ページのメニューから登録する。
【パソコンから登録】町ホームページにアクセスして登録する ※町ホームページのトップページ右側「おうらお知らせメール申し込み」のメニューから登録。

県がLアラートサービスを導入

Lアラートサービスとは、緊急事態発生時に県や市町村などが、情報を迅速に発信できる仕組みです。日頃使い慣れた、テレビやラジオ、携帯電話、ポータルサイトなどのさまざまなメディアを通じて情報を入手することができるようになりました。

【実用例】

お手持ちのデータ放送対応のテレビでアクセス。リモコンのdボタンを押して、データ情報を取得できます。



お住まいの地域の警報や台風情報などの他、災害発生時の邑楽町の避難所開設状況なども確認できます。

洪水の危険性をリアルタイムでお知らせ

川の防災情報

『川の防災情報』は、大雨時に川の氾濫の恐れがある場合など、雨や川の水位の状況などをインターネットを通じてリアルタイムで配信。いつでも、どこでも、避難に必要な情報を入手できます。

【アクセスURL】

- ①パソコン用
<http://www.river.go.jp/>
- ②スマートフォン用
<http://www.river.go.jp/s/>
- ③携帯用
<http://i.river.go.jp/>



【スマートフォン用】



【携帯電話用】

川の水位と危険性を確認できます。



邑楽町の浸水想定区域を確認できます。

広がる共助の輪 共助の備え

万が一に備え、自主防災組織として自主防災訓練を行うなどの活動が少しずつ増えています。その活動数は現在4つの組織。共助としての備えはありますか。もし、方法が知りたい場合は、役場安全安心課にご相談ください。



17区防災訓練

(平成29年3月19日実施)



11区防災訓練

(平成29年9月10日実施)



22区防災訓練

(平成29年1月22日実施)



6区防災訓練

(平成29年6月4日実施)



Interview

自主防災組織に聞く

自主防災組織の役割は意識付けと体制づくり

東日本大震災発生当時、本能的に地区内の巡回を行い、11区でも多くの被害を目の当たりにしました。そのときの体験から、自主防災組織としての体制をきちんと決めておかなければということに気付かされました。

そのときから始めた自主防災訓練(以下、訓練)は今年で7回目。今回は新たに、新聞紙による炊き出し訓練を行いました。結果は17分で炊くことができました。やはりどこかで見て、経験しておくことが災害時の行動につながると感じます。訓練はその意識付けをする場になり、自主防災組織としての大きな役割の一つだと考えます。

そして訓練には役員や関係団体、各班長に参加をしていただいています。これは災害時に地区の役員として自分はどういうことができるかをあらかじめ考えてほしいからです。他にも、11区では、地域の医療従事者や介護従事者などの把握にも努めています。今後も訓練をはじめ、行政区としてできる備えをしていきたいです。そして、こういった雰囲気他の地区にも広がっていくことを願います。



谷中蛭沼・11区
区長 佐藤俊彦さん

国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所

副所長 小栗 幸雄さん

「気付く」「考える」「行動する」 水害に備え、ハザードマップの確認を 家や物は再生可能、命は再生不可能。



最大規模を想定して

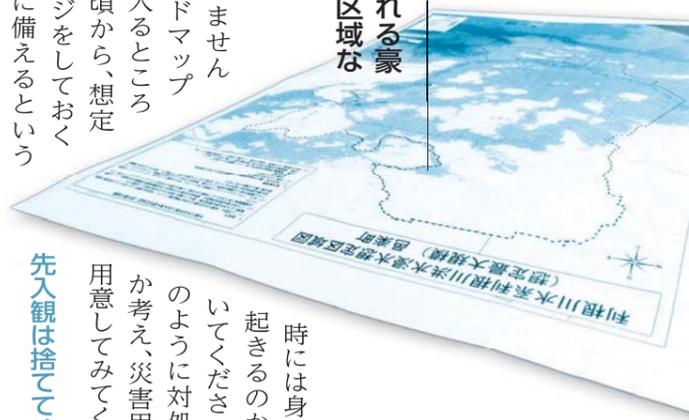
国では、平成29年7月に利根川水系浸水想定区域の見直しを公表しました。前回公表した平成18年7月のものと比べ、より細かい範囲での地盤高で計算し、想定雨量も想定最大規模となる、3日間の平均雨量を491mmとして見直しを行いました。これを元に、各市町村に水害ハザードマップ(以下、ハザードマップ)の見直しをお願いします。

ハザードマップ見えていますか？

水害による範囲の想定は、市町村が発表しているハザードマップが全てです。だからこそ、常日頃から、ハザードマップに目を通しておくことが大切だと思います。「皆さん、ハザードマップが家のどこにあるか知っていますか？」「棚の奥にし

平成29年7月に発生した、九州地方を襲った豪雨。千年に一度といわれる豪雨となりました。平成29年7月20日、国は利根川水系の洪水浸水想定区域などを公表。水害に対する想定すべきことを国の担当者に聞きました。

想定を知る



まい込んでいませんか？」ハザードマップは、常に目に入るところに置いて、日頃から、想定をしてイメージしておくことが、水害に備えるということ。2年前に常総市で起きた鬼怒川堤防決壊のときも、ハザードマップに書いてあるとおりの浸水だったといわれています。

災害時は普段通りとはいかない

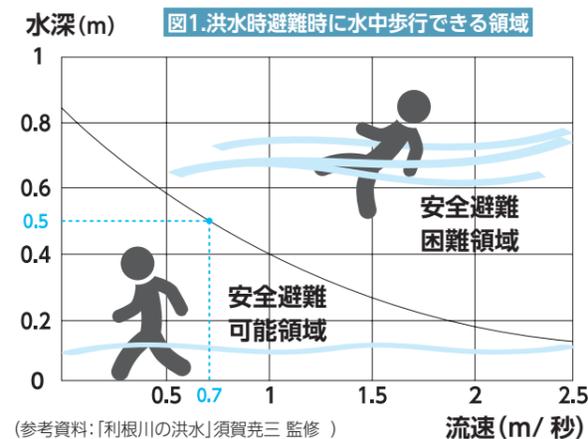
災害は「気付く」「考える」「行動する」の3Kが大切。水害が起これば、普段通りとはいきません。電気も使えない、水も使えない、トイレも使えない……。「電気がなくなつたとき、あなたの家では3日間過ごせる食べ物や水はありますか？」「電話もテレビも使えない状況でどのように情報を手に入れるか考えていますか？」。災害

先入観は捨ててください

時には身の回り何ができるのか気付いておいてください。そして、どのように対処すれば良いか考え、災害用に備蓄品を用意してみてください。

そして、水害では、今までの先入観は捨てたほうが良いと思います。まだ大丈夫と安心してはいけません。最近、今まで降ったことのない雨が現実降っています。大雨のときには、常に警戒をし、情報を手に入れてください。

「避難は早めに」が大切です。ある実験データでは、水の深さが、0.5m(大人の膝)程度



(参考資料:「利根川の洪水」須賀亮三 監修)

水の深さが0.5m(大人の膝)程度でも、氾濫流速が0.7m/秒程度で避難は困難になるとい実験結果が出ています

でも、流れによっては避難が困難になるといわれています(図1参照)。最後になりますが、家や物は再生可能ですが、人の命は再生できません。まずは逃げる、そして、命を守ることを考えてください。それには常日頃から想定をして災害時の行動をイメージすることを心掛けてください。